



19

東海道線根府川駅周辺（ | ）

関東大震災で根府川周辺（現在、小田原市）は大被害を受けました。熱海線（東海道線の前身）の列車が海に転落し、白糸川流域でおきた山津波では64戸の家が押しつぶされました。

相模湾や伊豆大島、三浦半島を一望にする根府川駅で電車を下り、跨線橋を渡って出札口にさしかかる右手に関東大震災殉難碑が建てられています。震災50周年にあたる昭和48年9月1日に根府川駅職員一同によって建立されました。当初、この碑は海を背にして、駅舎の南側に建てられましたが昭和52年9月1日に乗客の目にふれやすい現在の位置に移されました。震災当日の根府川駅の状況は駅史に次のように記録されています。

根府川駅史 関東大震災記録

大正十二年九月一日関東地方を襲った大震災で鉄道のうけた震害は甚しいものであったが、なかでも惨状を呈したのは根府川駅付近であった。大自然の暴威は一瞬にして駅構内を海中に没し去ったのである。

その日は小降の朝雨が十時頃やむと、あとは風もないどんよりしたむし暑い日で、高い土用波の

写真1 当初、関東大震災殉難碑は相模湾を背にして建てられました（根府川駅構内）





写真2 現在の関東大震災殉難碑（根府川駅構内）

よせ来る海の色が妙に赤味を帯びていた。

午後〇時一分に列車が行き違ひになるので、劔持浅治は東の転轍に、石田は西の転轍に従事し、ちょうど下り一〇九列車がホームに差かかり、上り一一二列車が寒の目墜道を出ようとした時地転を揺るような地鳴と共に大震動が起り眼前の山肌から巨岩が落下して来て砂塵のために四辺は濛々と暗くなり一瞬にして駅、官舎、構内線路も車止ストップ一個を残し其の他全部跡方も無く四十五米の断崖から迂り落ちて全部海中に没しわずかに駅長官舎の屋根が水面に浮いて居た。その時の状況は雪崩れ落ちた岩石と土塊で構内は歩行も出来ず又構内の白糸川鉄橋は押し流されて河流は土砂で止まり民家十数軒はその下に埋没してしまった。

下り第一〇九列車は全列車顛覆して海岸まで転落して行き機関車の一部を現はしたのみであとは皆海中に没し死者一一一名を出した。この時務めの帰途本列車に乗っていた小竹武夫氏の話によると車体が回転するので腰掛の下に入ったが止ったと思うと海水が浸入してきたので窓戸から飛び出し陸に泳ぎついたけれど岸が地迂りでずるずる上ってくるのでどうしても上る事が出来なかったようだ。

一方、上り列車は幸ひ寒の目墜道を出かかった時なので脱線はしたが顛覆は免かれた。この列車に乗って居た新運事の鈴木寿三氏は車内の旅客を整理指導して真鶴まで引戻り、後日効績章を授けられたとの事。同じ列車に乗って居た新運事旅客係の伊藤氏は脱線情況を見る為、駅の方に向った途中余震の山海嘯に遭ひ白糸川橋梁に墜落して亡くなられた。

当日駅長は非番で官舎に居たので海まで迂り落ちたが無事だった。助役は当時当駅に無く早川駅の予備助役勝又磯吉氏（静岡県駿東郡深原村出身）が助動に来て居り、列車を待ち受中ホームと共海中に没し出札掛の川口氏は本屋にて、受付駅手（姓名不詳一名）ホームにて、炭水夫（姓名不詳一名、上郡曾我村上曾我、本多）は給水所にて各自職場を守りつつ遂に殉職された。

天災とはいへ遭難された乗客と職に^{たお}殞れた職員の霊に黙禱を捧げ往時の状況を当時勤務せし生存者の記憶を聴し大震災記録となす。

昭和十七年十月十四日

。 駅 長 山本吉之亮

写真3 東海道線側に建てられていた大正十二年九月一日
大震災歿死者菩提の五輪塔



根府川駅を出て、小田原方面に約200m歩くと、草のおい繁った路肩に海を背にして、花崗岩でできた五輪塔が建てられています。

大正十二年九月一日大震災歿死者菩提と刻まれ、施主は岡野喜太郎と記されています。

岡野は元治元年（1864年）静岡県駿東郡愛鷹村に生れ、明治20年、24才の時に貯蓄組合「共同社」を創立し、後に駿河銀行に発展させた人です。夫人の岡野たいが、転覆し海に没した一〇九列車に乗り合せていたのです。岡野喜太郎は、私の履歴書（岡野喜太郎の追想、昭和42年6月、駿河銀行発行）に関東大震災と駿河銀行の項をもうけ次のようにしてしています。



写真4 現在の五輪塔

関東大震災と駿河銀行

～（前略）

私はこの震災で妻と三女博子（穴水熊雄妻）を失った。両人は湯河原の天野屋に保養に行く途中根府川で地震にあい列車もろとも海中に沈んだのである。この不幸を聞き、一瞬意気消沈した。しかし、数秒後には猛然と責任感がわき上がった。私は駿河銀行の頭取だ。銀行家としての使命を果さねばならぬ。家の不幸はそれに比すれば、ささいな私事である。私は全身がふるいたった。そして直ちに、九月三日の月曜日、健脚の若い行員を集めて、三班の支店被害調査隊を組織し、それぞれに支店出張所の被害状況を調べ、その所要資金の見込額を聞いて至急本店に報告することを命じた。この震災で神奈川県下の店舗で焼失六カ店、倒壊三カ店を出した。（～後略）（私の履歴書より、岡野喜太郎の追想、昭和42年6月、駿河銀行発行）

この碑も当初は東海道線を背にして建てられていましたが、この付近の工事の都合により最近、現在地に移されました。この碑にはいつも花が供えられています。

（平野富雄）